

福祉だより 信州



社会福祉 HERO'S vol.15

詳しくは巻末をご覧ください。



特集

重層的な体制整備に取り組む

地域共生応援大使
ふっころ

No.

789

2021 10月号

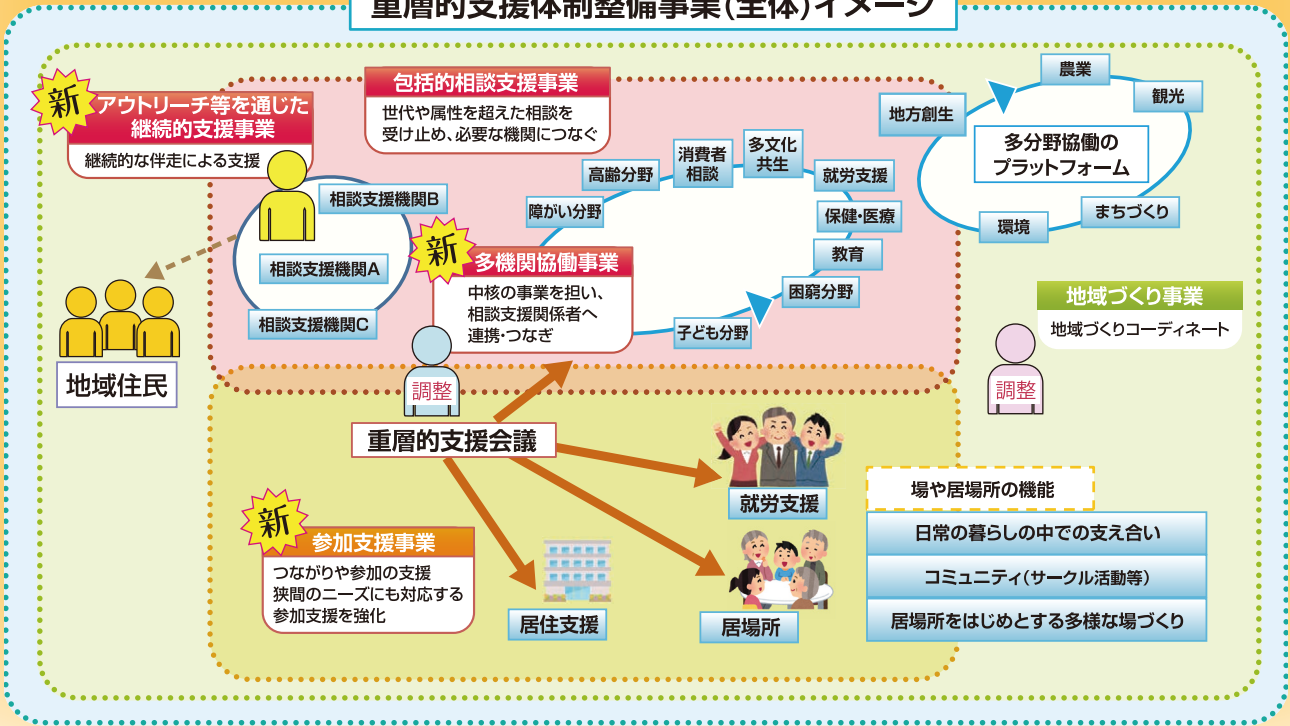


「ともに創る」を実践する

実践目標 ④ 断らない相談支援に向けた包括的支援体制づくり

重層的な体制整備に取り組む

重層的支援体制整備事業(全体)イメージ



(表) 重層的支援体制整備事業の内容
(社会福祉法第106条の4第2項)

	機能	既存制度の対象事業等
第1号	相談支援	【介護】地域包括支援センターの運営 【障害】障害者相談支援事業 【子ども】利用者支援事業 【困窮】自立相談支援事業
第2号	参加支援 社会とのつながりを回復するため、既存の取組では対応できない狭間のニーズについて、就労支援や見守り等居住支援などを提供	新
第3号	地域づくりに 向けた支援	【介護】一般介護予防事業のうち厚生労働大臣が定めるもの(※適いの場を想定) 【介護】生活支援体制整備事業 【障害】地域活動支援センター事業 【子ども】地域子育て支援拠点事業
第4号	アウトリーチ等を通じた 継続的支援事業 訪問等により継続的に繋がりを続ける機能	新
第5号	多機関協働 世帯を取り巻く支援関係者全体を調整する機能	新
第6号	支援プランの作成(※)	新

(注)生活困窮者の共助の基盤づくり事業は、第3号柱書に含まれる。
(※)支援プランの作成は、多機関協働と一体的に実施。

- 新事業3つの支援については第1号から第3号までに規定。
- 3つの支援を支えるものとして、アウトリーチ等を通じた継続的支援、多機関協働、支援プランの作成を第4号から第6号に規定。

包括的な支援体制の構築に向けて

2040年には人口減少・少子高齢化がさらに進展し、単身世帯が約4割に達すると予測されています。また、個人のライフスタイルの多様化に伴い、地域のつながりは希薄化し、社会的孤立やひきこもり、ダブルケアや8050問題など、個人や世帯が抱える課題が複雑・複合化してきています。

これまでの福祉制度は、高齢や障がいなど対象者ごとの課題に対してその解決を図ってきました。一方、本人または世帯の課題が重なっているために支援が行き届かないケース、本人に困り感が無かったり、自ら相談に行くことができないケースへの対応が求められています。属性ではなく個を中心とし家族や世帯を重視する。そして、地域生活課題についても、保健、医療、住まい、就労、教育などの「くらし」と「しごと」全般を広

くとらえていく。こうした多職種・多機関の連携による包括的支援体制の構築が求められています。

世帯支援・地域支援を重視した新事業の展開

地域共生社会の実現を目指して、2021年4月、社会福祉法の改正により、市町村ごとに「相談支援」「参加支援」「地域支援」の機能を重層的に整える「重層的支援体制整備事業」がスタートしました。

県内では、今年度、この本事業や移行準備事業に9自治体を取り組んでいます。この取組を各地域に広げ、個人のみならず世帯が抱える複雑・複合化した課題を丸ごと受け止める包括的な相談支援、つながりや役割、関係性を創出する参加支援、多様性を認め合える地域づくりを多機関協働のもと進めていく動きが展開されてきました。

地域共生社会の実現にむけて 重層的支援体制整備事業の説明会開催 第1回重層的支援体制整備事業従事者研修より

厚生労働省地域共生社会推進室の石川紀子氏が、地域共生社会の実現にむけた重層的支援体制整備事業の取組について概要を説明しました。

【要旨】 自治体全体として 断らない包括的な支援体制の構築を

重層的支援体制整備事業は、3つの柱である相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施することで、複雑化・複合化した課題を抱える住民に対応するための事業です。自治体全体として断らない包括的な支援体制の構築を目指します。

包括的相談支援事業と地域づくり事業は既存事業で、新事業の参加支援は、支援機関に繋がった人を社会とのつながりをつくるためのいわゆる出口にあたります。3つの柱を支える事業として、多機関協働事業、アウトリーチ等に通じた継続的支援、支援プランの作成が新たに規定されました(2P下表)。

事業の準備期間となる移行準備事業では部分的な機能として多機関協働のみでも始められますが、本事業実施の際にはすべての事業に取り組むこととなります。

事業自体が任意事業となっており、自治体によって準備ができたタイミングで取り

組めるようにしています。どのような形で実施できるのかは、イメージ図(2P上図)にあるように自治体にあるそれぞれの資源をあてはめて検討します。準備段階からの構築過程も重要であり、いくつもの部署、庁舎外とも連携することになるので、構築の過程で互いの理解が大切です。

既存の相談支援等の取組を活かし、
複雑化・複合化した支援ニーズに早期対応
支援が届いていない人に支援を届けることがこの事業のねらいです。まずは見えていない課題や支援につながらない課題を各部署で確認した上で、従来の支援体制のままではいいのか、本事業にチャレンジして狭間のニーズに対応できる体制を整えていくか検討することになります。

事業全体のデザインは、縦割りの壁を取り払うのではなく、それぞれの制度は残しつつもお互いの風通しを良くして取り組めるイメージです(下図)。

そのため、それぞれの分野の力量が上がっていく



令和3年9月7日 オンライン開催
125名が参加しました

効果が期待できます。独立機関を新設するのか、既存機関併設なのかといった支援体制の類型は、過去5年間のモデル事業でパターンを整理しており、ポータルサイトなどを参考に検討できるようにしています。

財政支援は一括して交付します。補助金の一体交付等によるメリットは、事務コストが軽減され、各制度で定められた支援機能の複合性を超えた支援が可能となり、制度の狭間の複合的な課題にもフレキシブルに対応できるようになります。

実施にあたっては実施計画の策定が必要です。自治体の関連計画との整合性が求められる。地域福祉計画とは別に策定するのか、内包するのは市町村の判断によってされています。

地域共生社会の実現にはゴールはなく、時代が変われば新たな課題が出てきます。



出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「重層的支援体制整備事業に係る自治体等における円滑な実施を支援するためのツール等についての調査研究報告書」(2021) 一部改変

現時点の課題に焦点を当てながら、少しずつそうした課題に対応していくことが必要です。

コロナ禍によって見えない課題が進行しているのではないかと懸念しています。そうした狭間の課題にも対応できる効果的な事業なので、ぜひ積極的に取り組んでいただきたいと思います。

地域福祉計画の策定について

長野県健康福祉部地域福祉課からは、地域福祉計画の策定についての説明がありました。県内では37町村が未策定であり(令和2年4月時点)、策定率は全国最下位です。地域福祉計画策定を機に、税務やまちづくりなどの幅広い分野・部署と連携していく横断的な取組として重層的支援体制整備事業を進める方法もあります。

実施自治体による実践紹介

今年度は飯田市が本事業を実施し、移行準備事業には長野市、伊那市、駒ヶ根市、飯山市、下諏訪町、富士見町、原村、飯綱町の8自治体を取り組んでいます。

飯田市では「重層的支援係」を新設し、既存の相談窓口に加えて「福祉まるごと総合窓口」を市役所本庁舎内に設置。担当の澤柳さんは「試行錯誤を続けていますが、かつての調査で浮き彫りになった110人の引きこもりの方々にアプローチを試み、その中でひきこもりの家族会をつくって情報交換の場を作っていきたい」と抱負を語りました。

* 厚生労働省 地域共生社会のポータルサイト <https://www.mhlw.go.jp/kyouseisyakaiportal>
重層的支援体制整備事業をはじめ、地域強制社会の実現に向けた取組に関する各種通知や全国各地の取組事例等を掲載。

キヤッチするアンテナを高くして

町役場全体を断らない相談の窓口

飯綱町 重層的支援体制整備事業 移行準備事業の取組

町民目線で庁内連携体制づくり

飯綱町は令和5年度に重層的支援体制整備事業の実施に向けて、今年度から移行準備事業に取り組んでいます。

町の地域福祉計画における住民アンケートで「相談・紹介から解決まで総合相談の対応、体制を充実してほしい」という要望が6割近くありました。ひきこもりや生活困窮などの相談件数も増える中、対応する機関が少なく、対応に苦慮している行政の実情もあり、重層的支援体制整備事業に取り組むことにしました。

「家族やご近所といった身の回りの大切な人が、この町でこれからも安心して暮らせるために必要なことは何だろうと我が事として考えながら取り組んでいます」と担当の坂木 攝あさむさんは話します。



つながる窓口を担当する相談支援包括化推進員の坂木攝さん(右)と生活支援コーディネーター兼務の藤木康弘さん(左)

今年度の重点目標は、

断らない相談体制づくりとしての庁内連携の構築です。保健福祉課(福祉



「飯綱みんなであつながる学習会」からスタート

係・介護係・地域包括支援センター)と教育委員会等の担当者が参加する「飯綱みんなであつながる学習会」を年内に4回開き、どんな連携体制が望ましいのかを話し合います。さらに、ツールとしてつながるシートを共有しながら試していくことになっています。庁内連携のキーワードは「住民目線」です。

どの課のどの窓口の誰でも断らない総合相談の対応を

多機関協働の取組として、多岐にわたる相談者・課題に対応するため、役場内に「つながる窓口」を来春に新設します。

「つながる窓口は一つの入口です」と坂木さん。「キヤッチするアンテナは各所に張って、困りごとは管轄外でも断らず、どの課のどの窓口の誰であっても相談を受けられることができるように、町民目線で役場全体が相談の窓口になることが目標です」

窓口には、坂木さんら2名の相談支援包括化推進員を配置し、関連する機関との連携により「見立て、役割分担、調整・コーディネート

ネット」を行います。

声を出不せない人や世帯とつながる意味では、生活支援コーディネーターの役割も重要になります。「どこに相談していいのかわからないという制度の狭間で苦慮する状況をつくらず、切れ目のない支援を行うためにも、敷居は低く、高いアンテナを張りながら町民の生活のために何ができ

るか考えていきます」。

町の事業計画と社会資源の把握を手始めに

以前グループホームの職員だった坂木さんが事業の担当となって最初に手がけたのは、町の各事業計画の把握と、施設や各種団体、地域のネットワークなど社会資源の「棚卸し」でした。

町の総合戦略には地域共生社会と密接に関わる部分があり、重層的支援体制整備事業に取り組むことにより町の事業も推進されると考えました。また、町にはいくつもの支援体制や事業所があることを知る中で、自ら足を運び、現場の人々の話を聞きました。

「さまざまな課題を共有できたことは大きな収穫です。アウトリーチの機能としてもまだまだいろいろの情報源があるはずなので、町民の皆さんから教えてもらい、それらを参加支援やまちづくりにつなげていくことが大事になると思っています」

より住みやすい町にするために

制度の狭間にある支援のしづらさは、地域の住みづらさ、生きづらさになっていきます。一つの窓口をつくることで支援がしやすくなり、住民の意識にも変化を与え、より住みやすい町に変えていくことができるのではないかと坂木さんは期待を込めます。

「準備段階から庁内すべての課が協議をすることで町の将来へとつながっていきま

す。会議も楽しく進めたい。最初は大変ですけれども、これから何ができるのか、どう変えていけるのか、楽しみとワクワク感を持って取り組んでいます」坂木さんたちの熱い思いとともに、飯綱町の重層的支援体制の土台づくりが着々と進められています。

information

【重層的支援体制構築にむけた後方支援】

体制整備、事業実施検討を含め進め方等、県・県社協がサポートいたします。

- 第4回地域共生社会推進 長野フォーラム (12月14日)
- 第2回重層的支援体制整備事業従事者研修 (12月予定)
- 市町村等への事業実施のための説明会
- 多様な機関の連携体制構築の支援
- 地域福祉計画、地域福祉活動計画の策定、改訂への協力・促進

【お問合せ】長野県社協 総務企画部企画グループ
TEL:026-228-4244 メール:kikaku@nsyakyu.or.jp

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和3年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額・年間保険料（1名あたり）

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術 入院中の手術		65,000円	
	保険金 外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料			350円	500円

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

商品パンフレットは
コチラ
（ふくしの保険ホームページ）



ボランティア行事用保険

送迎サービス補償

福祉サービス総合補償

（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

（傷害保険）

（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 ▶ **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社 TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
 この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJ20-12302 2020.12.28 作成)

令和3年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

▶ 年額保険料(掛金)

定員		基本補償(A型)
補基本	1~50名	35,000~61,460円
償A型	51~100名	68,270~97,000円
付見	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
補償B型	基本補償(A型) 保険料	+
	[見舞費用加算] 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円	

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 施設職員の補償

プラン4 社会福祉法人役員等の補償



です。 充実した補償と 割安な保険料

スケールメリットを活かした

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 ▶ **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社 TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

(SJ20-12299 2020.12.28 作成)



2021

信州ふっころ フェスティバル

「ともに生きる」を発信する

令和3年

11月13日(土)

10:30-15:00

全プログラムを
非対面型オンライン配信!

信州ふっころフェスティバルは、信州の自然と風土のなかで、「ごちゃまぜ」の力を原動力に、様々な個性や多様性が地域で輝く共生とふくしの未来を、みんなで感じる集いとして開催します。

「第70回長野県社会福祉大会」
「介護の日県民のつどい」併催

配信URL




<https://fukoro-fes.jp/>

プログラム

メインチャンネル	
10:30	オープニング パラリンピック開会式の感動を再び！ 「ごちゃまぜ」を原動力に開会宣言
11:00	地域共生スペシャルトーク 阿部知事と各福祉分野（高齢福祉、障がい福祉、児童福祉）の次世代リーダーが福祉の未来について語り合います。 
12:00	ふっころコーナー サブチャンネル、サイト配信の紹介、ふっころプラン取組紹介、表彰者紹介
12:30	おんしん未来コーナー 野外活動や軽スポーツを通じた参加支援によるおんしんづくり（時間と空間と仲間）の取組紹介
13:30	介護の日スペシャルトーク ケアコン受賞チームプレゼン 学生が行く〜謎の「ふくにんマーク」を探れ!〜 
14:30	クロージング サブチャンネルからの報告

サブチャンネル	
かえる放送局 かえるの家からの配信 ひきこもり当事者、障がい当事者、発表や主張を歌でつなぐリレー。	
長野復興ちゃんねる 令和元年東日本台風災害から2年被災地は今、地域課題に向き合う住民活動の推進を追います。	

サイト配信	
福祉のお仕事！ インスタPR大賞  福祉・介護の仕事の魅力、現場で働く職員がインスタに投稿。幅広い県民や福祉を学ぶ学生からたくさんの「いいね」をいただきます！	
ふっころアンテナ・ショップ 障がい者就労支援事業所の、素材にこだわり時間を惜しまない手仕事で作られた製品をセレクト。特設サイトで紹介します。	



総司会

上条百里奈さん

介護福祉士・白梅学園大学嘱託研究員・モデル
介護福祉士として現場に従事しながら、白梅学園大学で嘱託研究員兼非常勤講師を務める。また介護現場の労働環境、労働生産性について研究。日本介護学会(2019年)にて「介護福祉施設における労働生産性とその損失要因」について発表。東京大学政策ビジョン研究センター(現・未来ビジョン研究センター)「健康診査・保健指導の有効性評価に関する研究」の研究協力者。介護の現場で直面した情報不足による介護虐待、介護殺人、介護職の過重労働に課題意識を持ち、発信力を求め22歳からモデルとしても活動。東京コレクション等のランウェイ、CM広告等に出演。情報番組のコメンテーターやテレビドラマの介護監修なども手掛ける。厚生労働省「介護のしごと魅力発信事業」パーソナリティー。

*プログラムは変更する場合があります。
*配信方法・プログラム詳細は信州ふっころフェスティバル公式HPで随時ご案内します。



主催 信州ふっころプラン推進会議 (参画101団体 <https://bit.ly/3rhwsGK>)

後援 長野県/長野県教育委員会

(予定)

協賛 信濃毎日新聞社/朝日新聞長野総局/読売新聞長野支局/毎日新聞長野支局/産経新聞社長野支局/日本経済新聞社長野支局

(予定) 中日新聞社/医療タイムズ社/NHK長野放送局/SBC信越放送/NBS長野放送/TSBテレビ信州/abn長野朝日放送

事務局 社会福祉法人長野県社会福祉協議会 総務企画部企画グループ

〒380-0936 長野市中御所岡田98-1 TEL: 026-228-4244 FAX: 026-228-0130 E-mail: kikaku@nsyakyu.or.jp



信州ふっころフェスティバルには皆様の赤い羽根共同募金が使われています。



社会的弱者に包括的な支援の実現を目指して

就労移行支援事業所 Mirai

就労移行支援事業は障害福祉サービスのひとつで、一般就労を希望する方を対象に事業所内や企業における作業や実習、適正にあった職場探し、就労後の職場定着のための支援を行なっています。

“誰一人、取り残すことのない社会の実現”を理念に掲げスタート



高橋代表による講義

就労移行支援事業所Miraiは2021年4月に諏訪市に開所。茅野市の土木建設会社の社長でもある代表の高橋純さんは「何かこの地域のためにできないかを模索して立ち上げた」と開所の経緯を話します。「本当は活躍したいと思っけてもそのチャンスがない方もいる。そういう環境の人たちをどうやってつなげていくか。企業側からするとみんな人材不足なのでマッチングさえうまくいけば、障がいのある方やひきこもりの方たちにもチャンスや機会を提供していける」と話します。

対話を重視して信頼関係を構築し、特性に合った機会の提供

Miraiではこれまで障害福祉サービスの対象とならない方も含めて15名を受け入れてきました。あるメンバーの方とは実際に会って対話をして周りの環境を一つ一つ改善していきました。そして、その方に合うように、農業や自動車、飲食、クリーニングの仕事の機会を提供するとどれにも響き、毎日目を輝かせて「楽しかった」という声。「今までワクワクするような機会の提供を受けてこなかった。新たな機会を得ると本人がどんどんと意欲的になる。その人の特性に合わせながら機会の提供を行っていくことで絶対に皆、光ると強く思った」と高橋代表は振り返ります。

包括的に生活再建・人生再建できる居場所づくり

高橋代表はこれまで更生保護活動にも携わり、現在岡谷BBS会や協力雇用主^(※)としても活動しています。「社会的弱者を救済するプラットフォームを具現化していくためにその方たちの環境改善が必要と感じてきた。そして支援が必要な方が来たときにその人を送り出せる環境づくりも大事。Miraiの周りにも受け入れてくれる環境をたくさん作らないと」と話します。さらに、障がい、介護、更生保護と縦割りの支援にならないよう包括的にできないかと模索しており、「今、グループホームを作っていて段々そういうものを増やしていき、最終的にはどんな人でもここに来れば包括的に生活再建・人生再建ができる居場所を作っていきたい」と抱負を語りました。

様々なジャンルの体験先



お問合せ

就労移行支援事業所 Mirai

諏訪市高島3-1201-418 2階
TEL:0266-78-6691

詳しい活動はコチラから



HP



Facebook

^(※)法務省HP
更生保護を支える人々



福祉の想いをギター之音にのせて世界に発信

WEBでもご覧いただけます



リハーサルの合間に布袋さんと



開会式後は地元メディアの取材殺到。生放送でミニライブ



まじめなふりをして福祉教育のメッセージを伝える川崎さん

東京 2020年パラリンピック開会式に登壇した「デコトラ」。布袋寅泰さん率いるバンドが最高のパフォーマンスで盛り上げ世界中を魅了しました。そのバンドのひとり、車いすのギタリストで長野県社協に勤務する川崎昭仁さんに伺いました。

Q 開会式での演奏はいかがでしたか

A すごくワクワクして楽しい最高の瞬間でした。目の前にいる選手たちにエールを送る想いで演奏しました。演奏終了後は、お祭りの後のように寂しかったです。

次は、大きな大会で国歌演奏したいです。

Q 応募したきっかけは

A 1998年開催の長野パラリンピックではテーマソングの制作や関連イベントに参加し、街全体が障がい者理解しようという気持ちに溢れていると感じました。国をあげてバリアフリーに取り組み、多様性や障がいの理解に目を向ける大きなきっかけになりました。あれから20年、長野パラリンピックを知らない子どもたちにあの時の街の

あたたかい雰囲気を感じるひとりとして大会に関わりたいと思いました。

Q 普段の仕事について

A 主に学校などで福祉を題材とした学びをお手伝いする訪問講座のコーディネーターや障がいの理解について講演などもします。「この前学校に来てくれましたね」と街で気軽に声を掛けてくれたり、数年前講演を聴いたという高校生が、今福祉を学んでいると聞くととても嬉しいです。僕を見て最初は「車いすで歩けなくて可哀想」と感じる人もいますが、ギターを演奏すると「すごい！」に変わっていきます。「人は見かけによらない」体験を重ねることで、多様性を尊重する共生社会が自然とできてくると思います。僕を通してそれを理解し感じてもらいたい。そして、それまでの考え方を少しでも変化させることができたら嬉しいです。

誌面でお伝え出来なかった話や画像を右上QRコードからご覧いただけます。

●ご感想、お問合せ、掲載希望等は下記へお寄せください。

長野県社会福祉協議会
総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244
FAX 026-228-0130
E-mail kikaku@nsyakyo.or.jp

webでもご覧いただけます

長野県社会福祉協議会



福祉・介護べり帖



長野県福祉研修実施団体
きやりあねっと



信州福祉・介護のひろば



ざわめくアート

『エグザイル 3代目ガンちゃん』

油性ペン 水彩絵の具 画用紙

作者:吉川 真一郎(よしかわ しんいちろう) 37歳
長野市在住

吉川さんが普段通う福祉事業所のアート活動に参加してきたとき、当初「絵なんかへたくソだから描かぬえよ」と言い、どこかふてくされた感じでしたが、そう言わずに好きなもの描いてみない?と誘うと『じゃあ龍を描く』というので、ネットから龍の絵をプリントアウトして渡すと、墨でなかなか迫力のある龍の絵を描いた。その後次第にアートの時間に参加するようになり、最近は雑誌を見ながら好きな芸能人やバイクの絵を描いている。どこかツッパリ君的な雰囲気のものをお好むらしい。

吉川さんは自分の意思とは関係なく勝手に行動や言動が出てしまうという障がいを抱え、そのおかげで周囲から誤解を受け、そのことに振り回され、苦悩してきたこれまでがある。それを彼から聞き、知ってしまったからこそ、吉川さんのちょっとふてくされたカンジが好きだし、表現された作品の向こうに彼の苦悩が垣間見える気がする。

(ながのアートミーティング 取材)